

勉強法：高校生用

SRP 教育研究所

① 物事の構造・関係性を知ること

まず初めに言うておくことは、社会科などで暗記を求められる用語、年号などは歴史の中で起こった出来事や社会のしくみについて、より良い理解をするための用語にすぎないということです。あくまで暗記することが目的なのではなく、その知識を使って、より深い理解をすることが目的です。これは、どの教科にも当てはまることですが、まず、事柄・問題のしくみ・流れや解き方を考え、学び、次に、公式や知識を身につけ、その上で、最後に全体の流れを深く捉えていく。こういう勉強を心がけるべきです。

事柄におけるその成り立ちや因果関係、問題における「そう解いた理由」を、他の人に説明できるようになったら「理解できている」と言えるでしょう。

② 自分の方法で五感を使って、公式や用語を覚える

英単語や歴史の用語など、暗記に苦勞しますよね。ポイントは「声に出すこと」と「手で書くこと」の反復です。リズムに乗って軽い気分で反復すればいいんです。①でもうその知識の意味や用法を覚えてしまっているのですから、空虚な暗記勉強にならずにすみませう。覚える方法は人それぞれです。声に出す人、書く人、黙読する人など。まずは色々な方法を試した上で、自分に合った方法を見つけませう。見つからない場合は相談してみませう。

参考書の選び方・使い方

- ・ 参考書は手にとって開いて決めること…毎日顔を合わせるのに、つまらなかつたり難しすぎたりするようでは寂しい。一単元だけでも通し見をして、自分と相性が良さそうなもの、何より問題の「解説」（別冊子としてはさんであるものなど）がしっかり書かれ、理解しやすいものでなければ、自分学習もはかどらないです。参考書選びには、必ず時間と注意をかけること。
- ・ 1科目（1分野）1冊…基本的に、科目ごとにトータルなものを一冊に留めておくべきです。英語ならば、多くて文法1冊・英文解釈1冊・長文読解1冊というような感じですか。
- ・ 1冊を3回は繰り返す…上で、1冊に絞って買った参考書を3回は繰り返しましませう。これを間違える受験生は多いですが、何冊も買い込んでチョコチョコとつまんだだけでは力はずきませう。繰り返すには、根気のいりませうが、3回目にはその参考書が持つ解法テクニックがいつの間にか身についているはずですか。

※ あくまでこれは、誰にでも共通するようなポイントにすぎませう。先輩や先生などのアドバイスも参考にしましませう。

勉強法：数学（高校）

高校の数学では、今までに習ってきたことの応用だけでなく、「ベクトル」「微分」「数列」など、全く新しい“概念”の内容が出てきます。そして、これらに対して、次の2つのことを常に意識することが必要になってきます。

- ① 「〇〇とはなにか」を、他の人に説明できるようにする。

よく「ベクトルとは何か？」と聞くと、「分かっているんだけど、うまく言葉にできなくて…」などと答える生徒さんが多いのですが、元々、数学を含む科学とは、言葉（記号）にできるものだけを集めて組み立てられているものなので、言葉に表せない内容は存在しないと言い切れます。

そのため、上手く説明できないというのは、自分の中で理解していない部分がある場合がほとんどなのです。まず、教科書で新しい単元に入ったら、〇〇とはなにか？と考え、自分で言葉にしてみることをお勧めします。

- ② 「〇〇で何ができるようになったのか」を考える。

たとえば、ベクトルというアイテムは、ベクトルの問題を解くために作られたのではなく、何かを考えるのに必要であったために作りだされて、そして、今も何かに用いることができるから、教科書で扱われているのです。そして、そのベクトルを練習するために、ベクトルの問題が教科書に載せられているのです。

これを常に意識して、「〇〇」の考えかたを用いると、数学という学問において「どういうことができるようになるのか」を考えておくことは重要なことです。

勉強法：国語（高校）

現代文のポイント

③ 読書の必要性

入試現代文において頻出し、かつ受験生が特に手を焼くのが「現代」に関する論説文です。たとえば「ポストモダニズム」「記号論」などは高校での扱いが殆どなく、意味も分からない用語がバンバン登場してきます。このような用語や物の考え方に早いうちから慣れておけば、問題文を前にして焦ることもなくなりますので、分かりやすく面白そうな最近の文庫本（「岩波ジュニア文庫・中公新書等」）で興味のあるものから読んでいけばいいと思います。また、こういった知識が英語の長文に役立つことも意外に多いんです。

④ 論理的な文章読解の確立

「説明文・論説文を構造的にとらえて読む」これは小学校から皆さんがやってきたことです。もし苦手なら、小学校・中学校の説明文の参考書・問題集をもう一度やってみることでこの力がついてきます。ただし、文章の要旨・段落構造とその意味（展開の仕方）・指示語や接続語に注意して、解いた問題の理由を説明できるように進めていかなければなりません。最初はちょっと大変かもしれませんが、高校の現代文より語句がやさしい分、構造把握に集中できるのでお勧めです。「カン」ではなく論理的な読解を。

古文・漢文のポイント（※ 漢文の書き下し文は「古文」なので、まず古文の力を）

① 文法事項

古文はある意味「外国語」ですので、英語と同じく文法をしっかり身につけておく必要があります。まず、助動詞は接続・活用・意味を確実にマスターすること、係り結びも大切です。それから助詞は特に現代と異なる用法のものを中心に覚えることで、文章の大まかな流れはつかみやすくなり、授業についていけるようになるでしょう。分かりやすく楽しくなるよう工夫された覚え方を載せた参考書は多く出ているので利用してみましょう。

新しい単語が出てきたら、英語の単語を覚えるのと同じように覚えてみましょう。覚え方は前頁で触れたようなやり方が一番覚えやすいと思います。また、その古文の言葉を、普段の会話に当てはめて使ってみる「遊び」も面白いと思います。

例えば…「お前が遅刻せずにくるなんて、ありがたしだよ！」 などと。

② 古文の名作をマンガで

「源氏物語」・「伊勢物語」など入試にも頻出の有名なものは、マンガで読んでみるとストーリーや文化が分かり、読解の大きな助けになります。

③ 漢文：重要句法の覚え方

重要句法の例文を何度も読むことです。ペンの先で1文字ずつ追いながら何度も読むと、文字が目に入りやすく、語句、文法を意識して読み進めることができます。

勉強法：社会科（高校生）

① イメージ作り・大まかな流れの把握

語句の暗記が苦痛で、さらに、すぐ忘れてしまうことのないように、歴史ならマンガ・映画など、地理ならその国の写真集など、政経なら自分と相性の合ったニュースでも何でも構いませんし、各内容の教科書、資料集を流し読みして、「大まかにどんなことがあるのか」を把握するだけでも構いません。まずは、どんな時代だったか？どんな国なのか？どんな現状なのか等を妄想してみてください。（実はこの「妄想力」が大切です。）その上で学校や塾の授業で大まかな流れや、なぜ、そうなったかという原因、単元の要点をつかんで下さい。用語の暗記がイメージの先に来てしまうと、よく言われる無意味な丸暗記になり、なかなか覚えられないのです。

② 用語を覚えていく

①のイメージや大まかな構図の上に、重要用語を当てはめていくのです（実際にノートにやってみたらなおよい）。この時、意味の分からない用語などがあれば、Wikipedia（インターネットの無料辞典）や、山川出版社『～用語集』などで、とにかくその場で調べましょう。自分の言葉で、その用語の意味が誰かに伝えられるようになって初めて「覚えた」と言えます。

また、用語なかなか覚えられない時は、何度も書いたり口に出してみたり、五感をフルに使って色々なことを試し、自分なりの方法を見つけましょう（楽しみつつ）。自分に合った勉強の仕方、覚え方を見つけるのも勉強の目的の一つなのです。もし、どうしても見つからないときは、友達や先生のアドバイスも活用しましょう。

勉強法 英語科 (高校生)

英文法：

英文法と聞いて「おええ～」と来る人、多いかも知れません。実は先生でもそうです(笑)。誰にでも自分に適した学習法があるのですから、一つの方法だけで進めていく「学校の英文法」の授業についていけなくなるのも仕方ありません。でも英文法が英語力の基礎であることもまた事実なのです。

まずは、自分に合った文法の参考書(前述)を買い、「授業の予習」として自力でやってみましょう。分からなかった所を中心に学校の授業を聞いてみて、それでも分からない所は質問です。帰ってからもう一度参考書を復習し、問題集(これも解説が自分に分かりやすいものを選んで購入)の同じ単元をやって、分からなかった問題は、何度もやり直したり復唱したりして覚えましょう。

ちょっとメンドクサイかも知れませんが、これからは英語ができなければならない時代がやって来そうです。しゃべるにも読むにも基礎力は文法です。

READING：

一般的に、READING のテキストの文章は最低でも5回以上は音読しましょう。古臭い勉強法のように思われがちですが、外国語の習得において最も効果的な勉強法だと言われています。あとは、(楽しく)出てきた単語を覚えれば良いと思います。意味は授業の中で先生が解説してくれるのを大まかにノートにメモっておくだけでいいでしょう。余裕があれば、自分で訳出してみるのもよいでしょう。

※ 大学入試対策のREADINGは、志望校によって対策が大きく変わるので、個別に相談に応じます。

WRITING：

これは、中学校でやったことがある人も多いかと思いますが、効果的なのは、日記や手紙を書いてみる事。そしてそれを誰かに見てもらうことです(時間をおいて一人で見直すことも有効です)

※ WritingもReading同様に、学校ごとでやる内容・やり方が違いますから、必要な人には個別で相談に応じます。

単語 (入試に向けて)

実際に書店の単語帳をめくってみて、自分で覚えやすそうな単語帳を選びましょう。これも参考書同様に一冊で十分です(一部の大学を除く)。

- ・ 『速読英単語』型
- ・ 例文対応型
- ・ 単語の構造分解型など

勉強法 理科（高校生）

高校の理科は、ここ十数年で新たに見つかった内容が扱われるなど、かなり専門的な内容も含まれています。そのため、まずは「確実」な情報を得る手段を持つておくことが必要になります。岩波の小辞典、Wikipedia（インターネット事典）などを、すぐに用いることができる環境をまず作りましょう。

その上で、数学と同じく、「〇〇とは何か？」という問いを常に持って、教科書の内容を読み進めていく必要があります。さらに一段階上には、教科書の中に「〇〇は××である」という表記が数多く現れますが、これらについて、どのような根拠で、どのような歴史的議論の上で、それが断言されたのかということ、興味のある内容だけでも調べてみるとよいと思います。初めは面倒に感じるかもしれませんが、慣れると簡単にできて、全体的な理科の学習の効率が驚くほどアップします。

基本的には、教科書を「説明できるくらい」に、自分なりに噛み砕いた上で、色々な現象をさらに厳密に説明するため、小辞典や、概説的な参考書（物理入門・化学入門（共に駿台文庫））などを用い、得意な内容だけでも固めていくことが効果的です。